

郡山普及だより Yes! 農!!

発行:福島県県中農林事務所農業振興普及部

住所:〒963-8540 郡山市麓山1-1-1

TEL:024-935-1310 FAX:024-935-7030

ごあいさつ (農業振興普及部長 吉田 清)

大震災から7年余が経過し、今もなお、県産農産物への風評等影響は根強く残っている状況です。このような中、震災からの復興・創生期間3年目となる平成30年度は、本県農業の復興をこれまで以上に加速するとともに持続的に発展していくために、先進技術等の導入による経営の省力化や大規模化等の支援、認証GAPの取組拡大や地域産業6次化の推進、県産農産物のブランド化の強化などに積極的に取り組んで参ります。

今年も県中及び郡山地方の農業発展に向けて、関係機関・団体と連携して取り組んでまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

「ASAKAMAI887」栽培開始!



ASAKAMAI 887

郡山市米消費拡大推進協議会は、郡山市産コシヒカリの最高級ブランド米「あさか舞」の名称を「ASAKAMAI887 (アサカマイ・ハチハチナナ)」に決定しました。

米作りにかかる88の手間と7つの独自基準【食味値88点以上、タンパク質含量6.1%以下、ふるい目2.0ミリ、整粒歩合80%以上、特別栽培米、エコファーマー認定者、GAPに取り組むこと】が名称の由来です。今年、市内の生産者21名が「ASAKAMAI887」栽培に取り組みます。

ロゴは88の手間を象徴する八角形2つと7つの基準を象徴する七角形を組み合わせたものです。

各種実証事業の紹介

水稲 水田メガファームモデル事業

県では水田農業における低コスト、高収益化、作業の効率化・省力化を可能とする実用性の高い革新技術を現地で実証するため、郡山市日和田町の有限会社アグリサービスあさか野のほ場において郡山地域水田メガファームモデル事業を展開しています。

この事業では、ICTを活用したほ場管理システムによりほ場や管理作業を「見える化」し、ほ場管理の効率化を進めるとともに、低コスト栽培技術を組み合わせながら増収や品質向上に向けた実証を行います。



図 ほ場情報の「見える化」

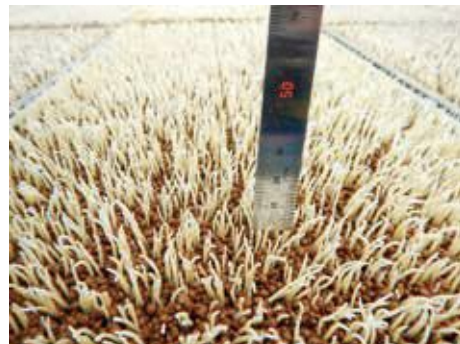


写真 出芽揃いした密播苗

野菜 加工サツマイモの高性能機械の導入実証について



写真 機械移植の様子

土地利用型作物を振興するため、郡山市西田町鬼生田地区において、作業の効率化を目的に、高性能機械を利用した加工サツマイモの現地実証事業を始めました。

5月22日には、労働負担を軽減する先進技術として、かんしょ移植機による移植作業の実証が行われました。参加した生産者からは、「手植えより楽で、とてもはやい。」との感想が出されました。

今後は、収穫機械による収穫作業の実証を行います。

果樹 ブドウ「シャインマスカット」長期出荷技術の実証

「シャインマスカット」の有色袋による収穫期延長技術と冷蔵貯蔵技術を組み合わせた販売期間の長期化実証試験については、取り組んで3年目となり、本年度が最終年度となります。昨年度は収穫期を10日以上延長し、9月末まで延長しました。また、販売期間を1月下旬まで延長し、5か月間販売することができました。

今年度も同様の試験を実施することで、技術を確立し、マニュアル化等を行っていく計画です。導入した技術による効果について情報提供していきますので、ご期待ください。



写真 1月下旬まで長期貯蔵した「シャインマスカット」

平成30年度からの水田経営について

平成30年産米からの米政策では、国からの生産数量目標の配分が廃止されましたが、これは転作廃止ということではなく、国からの情報をもとに、県協議会が生産数量の目安を設定し、市町村協議会や農業者へ提示することで、国主導の生産調整から農業者自らの経営判断により需要に応じた米づくりが行われることとなります。

米の需要環境は依然として厳しい状況が続いています。米の需要は毎年8万トン減少しており、29年産同様飼料用米や備蓄米等「需要に応じた米の生産」を行い、主食用米の受給バランスを保つことが米価の安定に必要です。

農地の集積による経営規模の拡大等を行い、生産コストの低減を図るとともに、水田フル活用ビジョンに基づき、園芸作物等の高収益作物への転換を進め、経営の安定に努めましょう。

GAPの取組について

GAPとは、**Good** (良い) **Agricultural** (農業の) **Practice** (やり方) の略語で、**農業生産工程管理**と訳されています。GAPの導入により、食品安全・環境保全・労働安全の確保を図ることができます。

平成29年5月15日に「ふくしま。GAPチャレンジ宣言」を行い、県を挙げて「GAP日本一」をめざしています。

農業振興普及部では昨年度に引き続き、今年度も研修会や相談会等を開催し、GAP認証取得に向けた支援を行っています。GAPに取り組みたいと思った方はいつでもお気軽にご相談ください。

ふくひらはる 新しい基幹種雄牛「福平晴」が誕生しました

「福平晴」は、長崎県の名牛「平茂晴」と当時脂肪交雑の育種価が県内トップクラスであった「はやさか38」との交配により誕生しました。現場後代検定では、上物率100%、平均BMS.No.8.4*という本県歴代第1位の成績を残し、非常に高い脂肪交雑能力を示しています。

気高もしくは但馬系種雄牛を父に持つ雌牛との交配が推奨されますので、ご活用をお願いします。

なお、「福平晴」は遺伝性疾患であるIARS異常症を保因していますので、交配に関しては注意が必要です。

*BMSとは、ビーフ マープリング スタンドの略で、脂肪交雑を評価するための基準。1~12の数値で評価され、No.12が最良値。



写真 「福平晴」：平成23年6月3日生
血統：平茂晴×平茂勝×菊谷

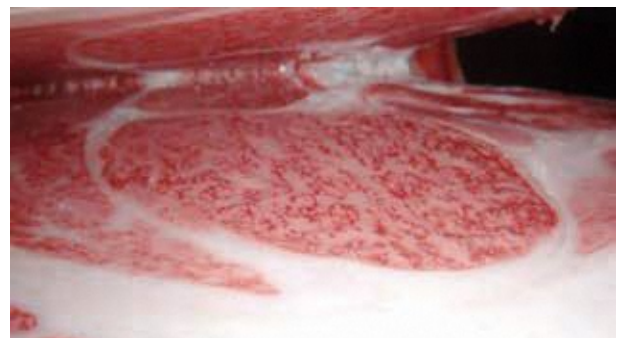


写真 血統：福平晴×平忠勝×福栄 性別：去勢、
枝重：449kg、ロース芯面積：62cm²、BMS.No.12

農業振興普及部からのお知らせ

●今年も開催します！『郡山梨塾』

今年も昨年に引き続き、郡山地区のなし産地維持・栽培技術の習得に向けて、なし栽培の基礎を学ぶセミナー『郡山梨塾』を開催します。

定年帰農予定の方、なし栽培の作業を手伝っている方、なし作りに興味のある方、栽培経験が短い方や無い方でもどなたでも大歓迎です。一緒になし作りを学んでみませんか？

今年は、5月から3月の間に5回の開催を予定しています。参加方法やスケジュールなどの詳しい情報は、農業振興普及部までお問い合わせください。



写真 昨年の栽培講習の様子

●使用前後の確認で正しく農薬を使いましょう

残留農薬超過の原因の多くは、①使用基準違反、②防除器具の洗浄不足、③周辺からの飛散となっています。

農薬を使うときには、①農薬使用基準等の確認、②農薬飛散の防止対策
農薬を使った後には、①使用した防除器具の洗浄、②使用した農薬の記帳 } これらを徹底
しましょう！

農薬販売店等で定期的に最新の農薬登録情報を確認しましょう！

●対策の組み合わせで農作物を鳥獣害から守ろう！

鳥獣被害対策は総合的な対策が必要です。管内の農作物における鳥獣被害の半分以上は、イノシシ被害によるものとなっています。これまでの事例から、捕獲などの個体数管理だけでは、被害はなくなりません。対策は一つだけではなく、複数をバランス良く組み合わせて総合的に実施する必要があります。対策の三本柱は、

- ①生態環境管理：緩衝帯の設置、森林整備、耕作放棄地解消、放任果樹伐採、収穫残さ撤去など
- ②被害防除：電気柵などの設置、維持管理の徹底
- ③有害捕獲：農作物等に被害を出す個体を捕獲



これらを集落ぐるみで、あきらめず、継続的に鳥獣被害対策に取り組みましょう。

●みんなでエコファーマーになりましょう！

エコファーマーとは、土づくりを行いながら、化学合成農薬・肥料窒素の使用量を慣行基準より減らして農業に取り組む計画を、県知事が認定した農業者のことです。計画を作成しながら、栽培管理を見直し、環境にやさしい農業に取り組んでみませんか。申請手続き等については農業振興普及部職員がお手伝いいたしますので、お気軽にご相談ください。

転入者紹介

平成30年度は新たに9名の職員が転入しました。

これまでの職員共々よろしく
お願いいたします。

所 属	職 名	氏 名	前任地
農業振興普及部	部長	吉田 清	伊達農業普及所
	副部長	渡邊 敏弘	水田畑作課
農業振興課	主査	山口 茜	県中教育事務所
地域農業推進課	課長	山田 英雄	田村農業普及所
	主査	手塚佐知子	農業総合センター
	主査	横尾 達也	須賀川農業普及所
	専門員	佐藤 一雄	須賀川農業普及所
経営支援課	主査(キャップ)	二宮 朋子	農業総合センター
	主査	木幡 栄子	農業総合センター